令和4年度　施策・基本事業マネジメントシート （令和3年度実績に基づく評価）

作成日　令和　4　年　7　月　25　日

政策体系				施策主管課長	
	基本目標名	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		産業政策課
	政　策　名	2	地域資源を活かしたまちづくり		
	施　策　名	1	中心市街地及び地域市街地の活性化		塩野目　裕
施策関係課	文化推進課、観光推進課、都市計画課、都市整備課、道路河川課				

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対　象」

この施策は、誰、何を対象としているか

①中心市街地（佐野駅周辺地区）
②地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）

	対象指標	単位	R1	R2	R3
①	中心市街地（佐野駅周辺地区）活性化計画区域面積	ha	165	96	96
②	地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）区域面積	ha	192	192	192
③					
④					

施策の目的「意　図」

この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか

①商業を中心とした魅力ある中心市街地を創出する。
②地域特性に応じた生活機能の充実、活性化を図る。

	成果指標（意図の達成度を表す指標）	区分	単位	H30	R1	R2	R3
①	中心市街地のメイン通り沿いの店舗数	目標	軒	320	321	322	323
		実績		314	314	319	389
②	田沼駅周辺が以前と比べてにぎわっている、生活しやすくなったと感じている市民の割合	目標	%	15.0	15.5	16.0	16.5
		実績		9.2	10.2	9.5	9.4
③	葛生駅周辺が以前と比べてにぎわっている、生活しやすくなっていると感じている市民の割合	目標	%	15.0	15.5	16.0	16.5
		実績		7.6	7.6	6.6	6.4
④		目標					
		実績					
⑤		目標					
		実績					

成果指標設定の考え方

①中心市街地における店舗数が増加する、または減少しないことを把握することにより、活性化が図られてることが確認できるため、成果指標として採用した。
②③アンケートでまちなかが便利になったと思う市民の割合を把握することにより、各市街地における各種事業の成果が確認できるため、成果指標として採用した。

成果指標の取得方法

① 実調査による
② 市政に関するアンケート調査
③ 市政に関するアンケート調査
④
⑤

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図		成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
中心市街地の賑わい創出	①中心市街地活計化計画区域	①人の交流がさかんな、商業地域となっている。	①	まちづくり会社が行ったまちなかコーディネート件数	目標	件	15	16	17	18
					実績		19	3	5	3
			②	空き店舗活用件数（累計）	目標	件	54	58	62	66
					実績		54	57	59	63
			③	市道佐野57号線の整備率	目標	%	0.0	3.2	4.6	28.2
					実績		0.0	3.1	10.2	25.7
			④	市街地活性化施設の年間利用者数（まちなか活性化ビル、ぱるぽーと、まちなかサロン）	目標	人	131,000	132,000	133,000	134,000
					実績		125,647	112,671	54,343	61,708

基本事業名	対象	意図		成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
地域市街地の特色ある発展	①田沼駅及び葛生駅周辺地区	①地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。	①	地域市街地（田沼）における定住人口	目標	人	8,580	8,580	8,580	8,580
					実績		8,643	8,693	8,696	8,774
			②	地域市街地（葛生）における定住人口	目標	人	2,160	2,160	2,160	2,160
					実績		2,092	2,064	2,020	1,921
			③	空き店舗活用件数（累計）	目標	件	3	4	5	6
					実績		1	1	2	2
			④		目標					
					実績					

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策

令和3年度施策の取組方針

・市道佐野57号線の整備及び駅南公園西土地区画整理は、連携を図りながら事業を進めていく。
・旧足銀佐野支店跡地については、まちなか賑わいの拠点として、さのまちづくり(株)と連携した整備を推進する。
・まちなかの魅力創造、賑わい創出を図るため、新しい生活様式を反映した飲食店等の「オープンテラス化」などを推進する。
・チャレンジショップ、市民ギャラリーについては、まちなか賑わいのための新たな利活用を検討する。
・空き店舗については、中心市街地は対象エリアを拡大、地域市街地は民間団体等が実施する他事業と連携し、さらなる活用を図る。

施策の取組方針・成果指標達成状況

取組方針	□ 全て達成	
	☑ 一部未達成	
	□ 全て未達成	
成果指標	□ 全て達成	
	☑ 一部未達成	
	□ 全て未達成	

【施策の取組方針達成状況】
・市道佐野57号線の整備にあたっては、道路改良事業と駅南公園西土地区画整理事業とで連携を図りながら計画的事業を推進している。
・旧足銀佐野支店跡地のまちなか賑わい創出拠点としての整備計画は、内容を全般的に見直しすることにjなった。
・駅前通りにオープンテラスを設置し、感染防止対策を講じながら飲食店等の事業継続を支援するとともに、賑わいの創出と回遊性の向上に取り組んだ。
・チャレンジショップは、市公式HP及び広報を通じて周知を図ることで活用が図られた。
・空き店舗については、中心市街地及び地域市街地ともに実態調査を実施した。また、空き店舗活用補助の対象区域拡大の要望もあり、賑わい創出事業補助金交付要綱を見直し対象区域を拡大した。
【成果指標達成状況】
・まちづくり会社のコーディネート件数は大きく下回っている。
・中心市街地メイン通りの店舗数は、調査範囲の拡大により増加した。
・田沼駅周辺及び葛生駅周辺ともアンケート調査によると「以前と比べてにぎわっている、生活しやすくなったと感じている市民の割合は減少した。

基本事業

基本事業名	令和3年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	
中心市街地の賑わい創出	・中心市街地へのアクセス向上のため、市道佐野57号線道路改良事業については物件補償及び用地買収、駅南公園西土地区画整理事業については、街区等の確定測量、道路の詳細設計、物件移転補償等を行う。 ・旧足銀佐野支店跡地については、さのまちづくり（株）が推進するまちなか賑わい創出としての整備計画を支援する。 ・まちなかの魅力創造、賑わい創出を図るため、新しい生活様式を反映した飲食店等の「オープンテラス化」をはじめとした各種取組を支援する。 ・まちなか活性化ビルについては、賑わい創出のための新たな利活用を検討する。 ・中心市街地の空き店舗活用については、対象エリアを拡大し、さらなる活用を図る。	取組方針	□ 全て達成　☑ 一部未達成　□ 全て未達成
		成果指標	□ 全て達成　□ 一部未達成　☑ 全て未達成
		【基本事業の取組方針達成状況】 ・市道佐野57号線は、区画整理事業の道路工事や物件移転に遅れが生じている。 ・旧足銀佐野支店跡地活用は、まちなか賑わい創出としての整備計画を進めてきたが計画内容全般に対し見直しすることになった。 ・佐野駅前通りの飲食店に対し「新しい生活様式」の定着支援とにぎわい創出に資するため、沿線歩道にオープンテラスを設置した。 ・まちなか活性化ビルのチャレンジショップは市HPや広報を通じて周知することで活用されているが、新たな利活用は図れなかった。 ・空き店舗補助金交付要綱を見直し、中心市街地の対象区域拡大をはじめ、業種の追加、改装費の対象経費拡大など、より活用しやすい補助金に改め、出店希望者の活用を促した。 【成果指標達成状況】 ・さのまちづくり㈱が行ったまちなかコーディネート件数は、市道の拡幅事業の進捗も相俟って減少した。 ・空き店舗は年間で4件の活用があった。 ・市道佐野57号線の整備率は、目標28.2%に対して25.7%の実績であった。 ・市街地活性化施設の年間利用者数は、前年に比べ増加に転じたものの、コロナ禍の影響により、依然として低調に推移している。	

基本事業名	令和3年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	
地域市街地の特色ある発展	・地域市街地の空き店舗については、活用が図られない状況を鑑み民間団体と連携したPR活動を実施する。 ・地域市街地の賑わい創出のため、あそ商工会、まちづくり葛生（株）と連携した新たな取組を検討する。	取組方針	☑ 全て達成　□ 一部未達成　□ 全て未達成
		成果指標	□ 全て達成　☑ 一部未達成　□ 全て未達成
		【基本事業の取組方針達成状況】 ・地域市街地の空き店舗については職員直営による調査を実施した。また、空き店舗活用について、宇都宮大学地域デザイン科学部の学生と課題を共有し解決を図るため、「地域パートナー制度」の申請を行い、本市が令和4年度の地域パートナーに決定された。 ・まちなか地域おこし協力隊員を主体に、あそ商工会青年部員に対し田沼・葛生の地域市街地活性化に関するアンケートを実施した。 【成果指標達成状況】 ・田沼地域市街地の定住人口は、田沼北区画整理区域内における新築の増加による田沼本町の人口増加により微増となった。 ・葛生地域市街地の定住人口は減少傾向が続いている。 ・地域市街地での空き店舗の利用はなかった。	

4. 施策の基本情報

施策の基本情報

社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	市民	事業所	行政
・各市街地のにぎわい創出、定住人口及び交流人口の増加に努めるよう求められている。 ・本市の市街地におけるまちづくりについては、コンパクトシティ構想及び立地適正化計画に基づき、市街地への都市機能、住居機能の誘導を図ることとしている。 ・今後の中心市街地のあり方については、地元の商工事業者及び有識者から、民間主導に重点を置いた取組を行うべきであるとの意見が出されている。 ・市議会において、地域市街地活性化の取組強化の指摘や空き店舗補助金の交付対象拡充を要望されるほか、商工会議所及び商工会から、空き店舗補助金の対象区域拡大を要望されている。	・日用品等は、可能な限り各市街地内で確保する。 ・各市街地内の土地所有者については、住宅、店舗として有効な土地活用を進めると共に、買い物客への効率的な駐車スペースの提供を行う。 ・各地域の特色を活かしたまちづくりに積極的にかかわる。	・商工団体等が中心となって、活性化の具体的方策を打ち出していく必要がある。 ・魅力ある店舗への創意工夫や利用可能な空き店舗の活用を積極的に行う。 ・各店舗等で取り扱う商品の独自性を高めることや、新鮮で安価な商品の提供、更には他業種との連携を心掛け活性化につなげる。 ・中心市街地及び地域市街地活性化のため、さのまちづくり（株）及びまちづくり葛生（株）の積極的な活動が期待されている。	・中心市街地内で必要となっているインフラ整備を計画的に進める。 ・地域市街地内では、既存ストックを十分活用しつつ、生活拠点として必要な住環境を確保する。 ・商工団体等と一体となって、各市街地の活性化施策を検討し、効果的な事業を展開する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
・市道佐野57号線道路改良事業及び駅南公園西土地区画整理事業については、事業計画に基づき連携を図りながら推進してきたが、駅南公園西土地区画整理事業の進捗に遅れが生じている。 ・旧足銀佐野支店跡地については、さのまちづくり（株）と連携し、まちなか賑わい創出としての整備計画を進めてきたが、計画内容全般に対し見直しすることになった。 ・コロナ禍での中心市街地の賑わい創出として駅前通りにオープンテラスを設置し、感染防止対策を講じながら「新しい生活様式」の定着を試み回遊性の向上に取り組んだ。 ・空き店舗活用については、年間4件の出店の成果が出たが、出店希望者の活用をより促すため、対象区域拡大や業種の追加、改装費の対象経費拡大などを見直し、より活用しやすい要綱に改めた。 ・田沼・葛生駅周辺の地域市街地において、これまでの空き店舗活用はわずかで令和3年度も0件という状況であるほか、コロナ禍もあり地域市街地での賑わい創出イベント等の活性化事業になかなか着手できない状況の中、まちなか地域おこし協力隊員を配置し、地域市街地の活性化に向け地元商店やあそ商工会青年部員との連携を予定している。また地域市街地での空き店舗活用について、宇都宮大学と「地域パートナー制度」を提携し、今後の空き店舗活用に向けての方策を連携しながら模索する。 ・令和3年度の決算額は、2億1,017万円となり、令和2年度決算額1億2,644万円と比べ8,373万円の増額となった。その主な要因は市道佐野57号線道路改良事業及び駅南公園西土地区画整理事業との進捗に伴う事業費分と新型コロナウイルス感染症対策での佐野新都市バス支援事業費に係る増額分です。	【令和4年度で解決する課題】 ・民間主導による「リノベーションまちづくり」としてさのまちづくり会社（株）と連携を図り賑わい創出に向け、旧足銀佐野支店跡地整備の方向性を検討する。 ・地域市街地活性化について、空き店舗活用等賑わい創出事業の方向性を決定する。 【令和5年度以降にも引き継がれる課題】 ①中心市街地活性化基本計画の将来像「活力あふれる暮らしやすいまち」の実現 ②市道佐野57号線道路改良事業及び駅南公園西土地区画整理事業の早期完成 ③中心市街地における空き店舗の利活用促進 ④地域市街地における活性化対策の推進 ⑤足銀跡地の整備促進 【令和5年度重点課題】 ⑥市街地活性化施設を活用した賑わい創出事業の促進	①中心市街地活性化基本計画の将来像「活力あふれる暮らしやすいまち」の実現に向け、さのまちづくり会社（株）や地元事業主と連携を密にし、空き店舗活用やイベントの開催等、コンパクトシティの推進に向けたにぎわい創出事業に通り組む。 ②市道佐野57号線の整備にあたっては、駅南公園西土地区画整理事業と連携を図りながら計画的に推進する。 ③さのまちづくり会社（株）と連携を強化し、空き店舗活用を進めながら地元事業者や地元住民と協力したソフト事業の実施に向けた取組みを行う。 ④田沼・葛生駅周辺の地域市街地について、地域おこし協力隊員や大学生との連携の元、地元事業者や住民と連携し活性化事業の実施と空き店舗活用を推進する。 ⑤さのまちづくり会社（株）と連携し、まちなか活性化の拠点としての旧足銀跡地整備を進めるとともに、市民交流施設の利便性の向上を図る。 ⑥ポストコロナでの対応としてまちなか活性化ビル・ぱるぽーと・まちなかサロンを有効活用し、回遊を促す賑わい創出の取組みを支援する。